

2009年12月3日 秋田さきがけ新聞

秋田さきがけ

(第3種郵便物認可)

200

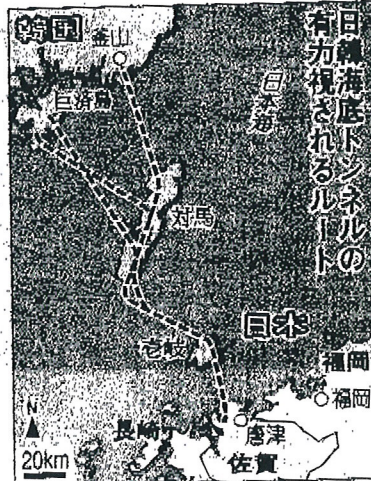
釜山・巨済島 - 佐賀・唐津間230キロ

「日韓トンネル」検討

韓国が基本構想 政府間で協議へ

【ソウル共同】韓国の李明博大統領は2日、地域発展委員会の会議を開き、日韓、中韓の二つの海底トンネルを長期的な検討課題とし「経済的、技術的な妥当性の研究」を盛り込んだ2020年までの国土開発基本構想を決定した。日中両国政府とも協議を進める方針。

日韓トンネルは韓国南部と九州、中韓トンネルは朝鮮半島中西部と中国・山東半島を結ぶ構想。日韓海底トンネルの論議は、これまで主に両国の自治体間で行われてきたが、北東アジア地域の協力拡大にもつなげ、政府レベルに格上げした形だ。ただ日本の植民地支配時代



日韓海底トンネルの有力視されるルート

に最初の構想が浮上したことなどから韓国内で反発がある。推定100兆円(約7兆5千億円)以上という巨額の建設費も必要で、実現性は不透明だ。韓国政府によると、両トンネルは、将来の韓国と北朝鮮の統一も視野に、国境を越えた物流ネットワーク構築が自

的。南北の鉄道連結で、朝鮮半島とシベリア鉄道を結ぶ列車が運行されれば、日本や中国から欧州に至る

「鉄のシルクロード」が実現する。南部釜山市の調査委託を受けた研究機関によると、日韓海底トンネルは両市が、近郊の巨済島から対馬、唐岐を経由し佐賀県唐津市に至るルートが有力視され、地上部分を含め総延長は最大約230キロになる。